

みんなの 広場



※上の白点は、題字と同じ内容を点字で表したものです。



地域生活支援センター「ひこうせん」利用者の山田修司さん
第30回岩手県障がい者文化芸術祭応募作品展文芸部門
優秀賞を受賞!



第30回岩手県障がい者文化芸術祭

※特集ページはP.4～5

【応募作品展】

令和4年11月24日(木)～12月19日(月)
ふれあいランド岩手 エントランス

【ふれあい音楽祭 2022】

令和4年12月3日(土)
ふれあいランド岩手 体育館

【記念式典(応募作品展表彰式)】

令和4年12月18日(日)
ふれあいランド岩手 ふれあいホール

主な内容

クローズアップ コロナ禍

「今 やれること」を見つめて …… 2、3

第30回岩手県障がい者文化芸術祭 …… 4、5

シリーズ 時の足跡

～入職10年目職員によるオンライン座談会～

…… 6、7

施設からのお知らせ …… 8

感染対策をしながら楽しむ行事

ワークなかやま

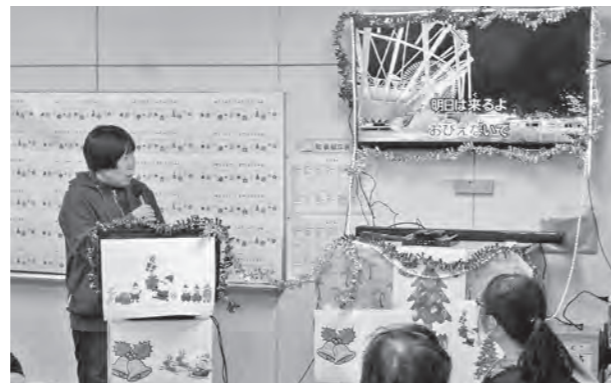
新型コロナウイルスの流行前は、自治会での外出を楽しみにしていた利用者の方々。現在は感染症対策のため、自治会外出を控えています。そのような中、施設内でも楽しめるものとしてカラオケの機器を購入しました。

これまでは行事で歌う際にはアカペラでしたが、カラオケ機器の導入により、音楽に合わせて歌詞を見ながら歌うことができるようになりました。歌唱後に点数が出ることで盛り上がり、他利用者の歌を聞いているだけだった人も歌うようになり、自治会行事に一役買っています。

マイクは1人歌うたびに消毒を行い、感染症対策もしっかり行っています。コロナ禍における自治会行事での、利用者の皆さんの新しい楽しみとなりました。



得意な曲で、高得点を目指します！



いつもは聴くだけの人も、歌にチャレンジ！

和光学園夏祭り

和光学園

「夏祭りがやりたい！」という子どもたちからの声。コロナウイルスの影響で2年間中止にしていた夏祭り、いつもは地域の方々で行っていましたが、今年度は感染症対策を行い、2年ぶりに和光学園単独で開催しました！

当日は、くじ引きや射的に長蛇の列が！綿あめやフランクフルトなど、子どもたちからのリクエストの屋台も大人気でした。日が落ちてきた頃には、みんなでさんさ踊りで大盛り上がり！夜空を彩る綺麗な花火には歓声も上がっていました！

今年もまた一つ、楽しい思い出ができ、早くも来年の夏祭りが楽しみな子どもたちでした。



さんさ楽しい！

ビンゴ1等だぞ！やった～！



花火最高！！

クローズアップ コロナ禍

新たな出会いを求めて～いざ、メタバースへ！

松風園

松風園では、自主生産品として自家焙煎コーヒーやお菓子を製造し、販売しています。コロナの流行により、訪問販売やスポーツ大会等のイベントが減り、自主生産品を直接販売する機会を失うと共に、大事なお客様とのコミュニケーションの場も減ってしまいました。

このような状況の中、今年度、全国障がい福祉物産展がメタバース（仮想空間）にて、令和5年1月23日から30日まで開催されるとの案内がありました。そこでは、お客様とアバターを通してコミュニケーションを図りながら商品が売ることができると知り、新たな販売方法について学ぶため、出店することにしました。通信販売に慣れていない私たちにとって、出店の準備は戸惑うことばかりでしたが、いざ物産展がスタートすると、店番担当の利用者が操作するアバターでお客様と交流しながら商品を販売する様子は、対面で行う外部販売に近いものを感じました。店番を担当した利用者さんからは、「北海道の人と話をしたよ」「買ってくれてうれしい」と満面の笑みで報告がありました。

今回のメタバースを体験し、販路拡大だけではなく、コミュニケーションを苦手とする利用者さんでもアバターや、チャット機能を使用することで他者と交流を図ることができるのだと、支援者として新たな気づきを得ることができました。

今後、充実した生産活動を実践し、工賃アップを目指すため、これからも新しい取り組みにチャレンジしていきたいと思っております。



メタバース（仮想空間）の様子



マイクを使って、お客様に商品を説明しています。



応募作品展・岩手県庁県民室展示

令和4年11月24日(木)から12月19日(月)まで、ふれあいランド岩手エントランスにて、「第30回岩手県障がい者文化芸術祭 応募作品展」を開催いたしました。コロナ禍での開催も3年目、十分な感染症対策を講じながら、岩手県内の皆様にご参加いただけるよう配慮を行いました。その結果、絵画・書道・写真・工芸・文芸の5部門に、合計357点もの作品を応募いただくことができました。新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、作品作りを励みとして当芸術祭への応募を楽しみにされていた方も多いようです。年々展示点数が増えており、また、作品一つ一つがパワーアップしている様子も窺えました。作品作りを通して、支援者の皆様の工夫も垣間見えました。

また、今回は第30回の記念すべき節目として、ふれあいランド岩手での展示終了後、令和5年1月23日(月)から27日(金)まで、岩手県庁県民室にて、各部門最優秀賞及び優秀賞受賞作品の展示も行いました。

今後も岩手県障がい者芸術活動支援センターとして、障がいのある方の創作・表現活動支援について、より一層邁進していきたいと思っております。



▲ふれあいランド岩手での展示の様子



▲岩手県庁県民室での展示の様子

記念式典(応募作品展表彰式)

去る令和4年12月18日(日)ふれあいランド岩手ふれあいホールにて、記念式典を開催いたしました。ふれあい音楽祭2022と同様、こちらも3年ぶりの開催となりました。

応募作品展審査会にて決定した、各部門の最優秀賞、優秀賞、特別賞、佳作受賞者をご案内し、会場内スクリーンに投影した作品画像を背景に、会場の皆様の前で賞状と副賞をお渡しいたしました。また、記念すべき第30回目ということで、審査員の方々もお招きし、作品に対してコメントもいただきました。

月日をかけて作り上げた作品を来場した方々と鑑賞しながら行う表彰式は、ご本人やご家族、支援者の方々にとってかけがえのない機会となったように感じました。



▶入賞者ご本人の作品画像をバックに、賞状伝達を行いました。

第30回 岩手県障がい者文化芸術祭

ふれあい音楽祭 2022

去る令和4年12月3日(土)、ふれあいランド岩手体育館にて、3年ぶりに「ふれあい音楽祭2022」を開催いたしました。こちらの音楽祭は、障がいの有無関係なく参加できるものであり、岩手県内で音楽活動を行っている11団体から応募がありました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、思うように活動できない団体が多かったようですが、それでも「いつかはステージで発表をしたい」と、メンバーそれぞれの思いを励みに当日を迎えられました。

ギターやピアノでのソロ演奏から、和太鼓、バンド演奏、煌びやかな衣装を纏ったダンスチーム等、様々なパフォーマンスが会場を盛り上げました。中には、作詞作曲までご自身で手掛けられている方もいらっしゃいました。

昨年度まで

はオンラインによる音楽発表としておりましたが、やはり会場で味わう音楽発表は段違いであると実感しました。感染症対策を十分に講じると共に、発表いただく皆様の良さを存分に発揮できるように、工夫を凝らした活動支援を行っていききたいと思っております。



岩手日報特設サイトへの作品掲載

第30回岩手県障がい者文化芸術祭応募作品展入賞作品は、岩手日報特設サイトでご覧いただくことができます。(閲覧期限なし)

QRコード、または下記URLから特設サイトにリンクできます。

URL <https://onl.sc/qx8VGNw>

▼岩手日報特設サイト



▼特設サイトの目印(リンクバナー)





シリーズ 時の足跡 ～入職10年目職員によるオンライン座談会～

トークテーマ:10年間で手に入れたもの、これからの私

参加者	駒木 怜さん (りんどう 寮棟主任)
	佐藤 隆秀さん (相談支援センターさくら 主任相談支援員)
	米澤 剛さん (和光学園 保育士)
ファシリテーター	浅沼 茂 (中山の園総務部 総務部長兼総務係長/機関紙編集委員長)
オブザーバー	高橋 俊英 (事務局次長)

岩手県社会福祉事業団への入職から10年。同期職員同士の交流も兼ね、これまでの自分を振り返り、それぞれの思いの共有、そして新採用職員に向けてのメッセージをお話いただきました。

10年前の自分について



駒木 やまゆりの
地域職から同施設
の正規職員として
スタート。当時は
プロパーとして気

持ちを切り替えることが難しく、何を求められているのか、その役割の変化を理解するまでに時間がかかった。

佐藤 他法人からの転職という形で、やまゆりからスタート。当時は不安もあったが、地域職からスタートした駒木さんもいたため、分からないことを聞きやすく、心強かった。

米澤 療育センターの病棟での採用。医療の側面が強い職場であったため、分からないことが多く、右往左往していたが、看護師の方に助けていただいた。保育を学んできたが、初めて重症心身障がい児の子ども達と関わることとなり、かなり学びになった。

浅沼 助けていただいた仲間を見つけたということは、業務を行う上で大変重要なこと。仕事の取っ掛かりとして、

とてもよい経験だったと思う。

10年経験して得られたもの



佐藤 入所支援から生活介護の通所支援、県派遣や事務職等、幅広く様々な業務を経験させていた

だいた。ひとつの業務を突き詰めていないという点もあるかもしれないが、事業団の恩恵を受けているように感じる。

米澤 協力することの大切さを実感した。療育センターでは5年務めたが、そこでは医療職、訓練職等、様々な職種の職員が一人の利用者に対して関わりを持ち、互いに様々な専門性、視点を得ながら支援をしていく。また、児童養護施設である和光学園も、学校や関係機関との調整、協力をしながら支援をしていくことが求められる。協力の大切さを日々感じながら励んでいた。

駒木 中山の園の施設を経験してきた

中で、諸先輩方から多くのことを学んだ。判断を求められるポジションになったため、判断基準や寮棟での支援の流れ、雰囲気を感じて業務を行うことを目標としてきた。今後は色々な職員にも伝えられるように励みたい。

課題に思っていること・苦労話



米澤 ご家族の対応について、どのような対応が適切なのか、迷うことがある。上司にも助けていた

だきながら、支援に臨んだ。

駒木 職員への指導が大変だった。「普通」の感覚が難しく、自分自身の基準で物事を話してしまうことがよくあるので、指導対象の職員と感覚のズレがあるとうまく伝わらない。業務の見直しをする際、長く在籍している職員の中には変化を好まない方もいる。なんとか利用者に沿った支援に変化させていきたいが、難しく感じている。

佐藤 自分自身がこの仕事に向いてい

るのか、時折不安になることがある。現在は相談支援員として利用者との面談を行っているが、うまく話すことが難しい。利用者にとって必要な制度を伝えたり、ニーズを汲むことができていないか、常々考えながら支援をしている。(駒木さんの話から) 基準のすり合わせというのは難しい。話し合うこと、そして聴くことが大切だと思う。相手がどのような基準を持っているか、どこまで歩み寄ることができているかと考えている。

ターニングポイントとなったこと

駒木 主任に昇格した際、その役割に大きな変化があった。今まで以上に求められる役割が増えたので、不安な部分もあり、施設長や係長等上司への相談を重ねた。全体を見ることを以前よりも意識するようになった。

佐藤 他法人への研修や県派遣、事務局勤務がそれぞれ該当する。研修や事務的な業務を通して、国や県の施策、法人の運営について、業務に携わりながら知ることができた。生活支援以外の余暇支援、芸術活動についても学ぶことができた。

米澤 人との出会いが一番のターニングポイントとなった。療育センターの病棟に配属されたが、別の支援係の職

10年後の自分のイメージ

員に、事業団職員としての心構えや法人内の仕組みについて教えていただくことができた。支援に当たっている時にも、「その職員だったらどのように考えるか」と、指導していただいた職員の立場になって考えることができた。

駒木 今後は相談支援や事務職も経験し、事業団全体、福祉業界について幅広い意見を言える人材になりたい。

佐藤 今の施設長等のように頼もしくなれているか不安もあるが、指導できる立場になりたい。今まで育てていただいた分恩返しをしたい。

米澤 児童養護施設の基幹的職員になる研修や資格を取った。人事異動を経験して、また和光学園に戻り、指導できる立場になりたい。



高橋 将来の目標に向かって、ポジティブに進んでいきたい。

浅沼 これからも色々な業務、役割を経験していくと思う。尊敬する先輩、上司がそれぞれいると思うが、その方々も経験を重ねてきている。今できること、向くべき方向を見定めて精一杯取り組んで欲しい。

新採用職員に向けてメッセージ

米澤 自分の理想を持って入職される方が多いと思うが、理想に固執してしまつと現実とのギャップに戸惑うこともあると思う。今自分が置かれている状況の中で何ができるのかを考え、日々業務に励んでいきたい。

駒木 たくさん自分の意見を出して欲しい。新しい職員は意見が言いづらいうように思うことがあった。会議や日々の業務の中でも考えを聞かせて欲しい。事業団には幅広い業種の施設があるため、色々な経験ができるチャンスがある。経験を積んでいく中で、自分がどのような道に進みたいのかを突き詰めて考えながら、日々の業務に励んで欲しい。



浅沼 仕事を行う上で大事なことはコミュニケーション。対利用者、対職員であることもそれは同じこと。チームでの支援をしていくために、

まずはしっかりと挨拶から始める。声を出していけば、自然に仲間になっていくと思う。声を出すことから心がけていって欲しい。

今回のオンライン座談会の参加が叶わなかった職員より、10年を振り返ったコメントをいただきました！

今回原稿依頼をいただき、福祉の仕事についてからこれまで、あつという間だったなあと感じています。

採用されてから現在までを振り返ると、出会った方々から多くの事を教わり、支えていただいた10年間で、非常勤職員として働き始めた頃は福祉の知識が無く、分からない事ばかりで自分の至らなさに思い悩む事も多くありました。ですが、一緒に支援を行う方からの助言に支えられ、日々接する利用者の方から元気をいただいた事で前に進むことが出来、これまでの経験を通して現在の自分があることをとてもありがたく感じています。

現在の部署では、様々なサービスを提供する支援者が繋がり協力して利用する方々の生活を支えられている事を改めて実感しています。自分の未熟さを感じることも多々ありますが、これまでの経験から学んだ事、そして、利用者の方の生活の一助となることを自分の支援の基礎として、これからも成長していけるよう努めていきたいと思っています。

岩手県立療育センター 障がい者支援部 生活支援員 馬淵 春那



施設からのお知らせ

いわて子どもの森 募集型企画展 “みてみてギャラリー” の開催



いわて子どもの森では、今年度新たな試みとして「募集型企画展みてみてギャラリー」を開催しました。

“わたしのすき”をテーマに子どもたちから作品を募集し、142点もの作品が大集合！個性あふれる素敵な展示となりました。

岩手県立視聴覚障がい者 情報センター

電話リレーサービス 地域講習会開催



地域講習会開催時の様子

令和3年7月から、公共インフラとして『電話リレーサービス』が始まりました。聴覚や発話に困難のある人ときこえる人との通話を、通訳オペレーターが手話又は文字と音声を通訳することにより、いつでも即時双方向につながるができるサービスです。利用促進のため、地域講習会を県内各地で開催しています。



新採用 職員情報



中山の園
栄養士

※令和4年12月1日採用

いかわたく
猪川拓

♪マイフーム♪

釣った魚を食べること

食事を通して充実した毎日を提供したいです。



岩手県立療育センター
看護師

※令和5年3月1日採用

こばやしあやか
小林彩花

♪マイフーム♪

スノーボード

丁寧なケアを笑顔で行えるよう努めます。